

祖母の努力

宮城県・古川学園中学校 2年 後藤 由佳

お金。それは、人や社会を幸せにするものであるが、苦しめるものでもある。だから私は大人になったら苦労して稼いだお金を大切に使う生活を送っていきたい。

今まで、祖母から学んできたことは多い。小さい頃は祖母の家に居ることが多かったため、たくさんのことを教えてもらった。料理に裁縫、字の書き方、お客さんへのお茶の出し方。その中でも、いまだに祖母が言い続ける^{せりふ}台詞がある。「昔、たっくさん努力して、働いたから今こうやってみんなと幸せに暮らせてるんだよ。」

亀の甲より年の功だからこそ言えることなのかもしれない。私は気になって、その当時のことを祖母にたずねた。

祖母の実家は、近くに大倉ダムがあるため、ダムの工事をしている方々の宿舎となっていた。私と同じくらいの年齢の頃から祖母は働いていたそう。当たり前だが、お金を稼がないと商売どころか、生活もできなくなるし学校にも行けなくなってしまふ。当時の祖母は学校に行きたくて、必死で働いたという。朝4時には起床し、家族や宿泊客全員分のお弁当作り。掃除を済ませたら、山に入って薪を背負い、走って帰ってきてから学校に行く。そんな日々だったそう。しかし、稼いだお金は全て親に回収され、自分の手元には1円たりとも残らないばかりか、高校へ行くのも許されなかったのだ。働けば、それ相応のお金がもらえる、学校に行けるのは当たり前、そう思っていた自分は甘かった。そんなエピソードの中にも印象に強く残るものがある。

高校に行けなかった祖母だったが、それでも学校に行きたくてさらに働いた。が、働きすぎて体を壊し、入院することになってしまったのだと祖母は言う。そこで親から言い放たれた一言が、「入院費がかかるだろ。どうしてくれるんだ。」

だったのだ。

お金を稼ぐ苦勞、難しさを痛感した。親が稼いだお金をお小遣いとしてもらい、無計画で使っていた自分。自分で必死に稼いだお金も使わせてもらえず、むしろ責められていた祖母。この圧倒的な差に恥ずかしくなった。

しかし、結婚して、自営業をはじめた頃もお金で辛い思いをしたそうだ。

土地等を買うために、多額の借金をしなければならなかったのだ。返済するのにはとても大変な額だったと祖母は言っている。

「あの時は辛かったね。魚1匹を二人で分けて食べるくらいだから。でも、息子に仕事を継ぐ時は、借金を全てゼロにして、継ごうと思ったから、頑張ったよお。うんと（とつても）、努力した。」

それからというもの、祖母は何十年にも渡る返済計画をたて、コツコツ、コツコツ、地道に返済し続け、私のお父さんに仕事を継ぐときは、計画の通り、借金を全て返済したとのこと。

私は祖母のことを誇りに思う。そして、今まで無計画にお金を使ってきたことをとても申し訳なく思った。だから今ではお小遣いの半分は、貯金している。家族との楽しみや将来のためだ。私の祖母が祖母でなかったのなら、限られているお小遣いの半分以上を貯金するなんて考えもしなかったのだろう。自分の将来は分からないが、少なくともお金に困る生活を送っていたのだと思う。祖母の話聞いて本当に良かったと思っているし、何より感謝したい。

今現在、家族や社会のために両親をはじめ、祖父母までが働いている。こうして仕事があって、幸せな生活が送れているのは祖母やたくさんの人々が過去に努力をし続けたからなのだとは私は思っている。楽をしてお金を稼げないのは当たり前だし、努力をしてもそう簡単にお金を稼げないのも理解した。だから、私も努力して、苦勞して稼いだお金を大切に、計画的に使っていくんだと心に決めた。今も頑張っている親にせめて将来は楽をさせてあげたいから、そのために使うお金を苦勞しながら貯めていきたい。

